

皆様おはようございます。

本日、ここに議員各位の御参集をお願い申し上げ、令和元年 第1回江田島市議会を開会するに当たりまして、御挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、平素から市政運営に対し、格別の御理解と御協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。

また、市民の皆様には早朝から、定例会の傍聴にお越しいただき、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、一昨日、第6回となりましたSEA TO SUMMITが、宇宙飛行士の若田光一さんを始め、全国17の都府県から多くの参加を得て、無事終了いたしました。例年ですと中国地方の梅雨入りは、6月7日頃でございますが、今年は今週末になる予測でございます。甚大な被害を発生させた今年の7月豪雨災害から、はや1年を迎えようとしております。

しかしながら、復旧・復興事業は未だ道半ばでございます。市民の皆様の被災の現状や御心労に胸が痛む思いでございます。そうした中、この雨空に心配を思いをはせながら、復旧作業を継続しております。

また、被災された現状や市民の皆様の安全・安心を踏まえ、被災した住宅に隣接するがけ地復旧への補助といたしまして「流入土砂等撤去事業補助制度」の拡充など、少しでも市民の皆様に役立ちたいとの思いで、事業を進めているところでございます。

このような復旧・復興の中で「令和」という新時代を迎えました。今市議会定例会も、令和元年初の定例会となり、江田島市にとりましても、この新たな時代に歩みを始めようとしております。

こうした平成から令和の時代に移っていく中で嬉しい話題が3つございます。

1つ目は世界一でございます。

市民の皆様が大切に育てた江田島産オリーブで作られましたオリーブオイルが、去る4月3日から6日まで、イタリアのサンレモで行われました「マスターズ オリーブオイル インターナショナルコンテスト」におきまして「ミディアムフルーティ部門」と「ブレンド部門」の2部門で世界一となりました。

これはオリーブ原産地のヨーロッパ諸国を抑えての入賞であり、日本初でございます。

本市のオリーブ栽培は平成22年度から取組を開始し、市民の皆様の御協力を得ながら少しずつ歩みを止めることなく育んでまいりました。

今回のこの結果は、これまで培ってきた生産技術や加工技術が国際的に高い評価を得たことでもあり、生産者である市民の皆様にも大きな励みになるのではないかと考えております。

また、本場イタリアのコンテスト関係者は、アジアでの栽培にも興味を示しておりまして、このオリーブの歩みゆく道は江田島市から世界へ続いていると示してくれております。

市といたしましても、新たな「えたじまブランド」としてオリーブ振興に力を傾注してまいります。

2つ目は、日本一でございます。

本市の特産でございます「かき」では、今年、平成31年3月4日に公表をされました農林水産省の海面漁業生産統計調査によりますと、平成29年の調査結果、江田島市の生産量が25,681トンとなり、お隣の呉市を抜いて日本一となったものでございます。まさに10年ぶりの日本一の奪還でございます。

本市のかき養殖も、昭和の初め頃から紡いできた先人の方の格段の努力と現在の生産者の方の創意工夫と情熱が、再び生産量日本一に輝かせたものであると思っております。

3つ目は、江田島市唯一でございます。

市唯一というのは、県立大柿高等学校のことで、生徒数の減少によりまして、広島県教育委員会の方針で再編や統廃合の検討対象となっております。

しかしながら、令和元年度となります本年度は大柿高校の存続を意味する生徒数が5月1日現在で92人となり、基準の80人を大きく上回って確保することができたところでございます。

これは、市民の皆様の市内唯一の高校を残すという熱い思いや、通学定期券補助などの厚い支援によりまして、再編や統廃合の対象から外れることとなったものでございます。

また、これで終わりということではなく、これからがスタート、これからが大事であると思っております。

市内唯一の県立高校でございます大柿高校が江田島市立高校であるとの思いで、変わらぬ支援をしてまいりたいと思っております。

そのほか、囲碁で県内初の女流棋士となりました大森らんさんが、4月のプロ入り後、初公式戦で、初勝利を挙げたことなどを含めまして、このような嬉しい話題が令和という新時代の幕開けを勢いづけ、江田島市の輝かしい未来につながると期待しているところでございます。

その新時代であります元号を「令和」と発表した直後、4月9日に政府は新しいお札の発行を発表いたしました。その新札の1万円札には、日本の資本主義の父といわれ、江戸時代から昭和を生き抜いた大実業家、渋沢栄一さんに決定をいたしました。

その渋沢さんの著書に「論語と算盤」というものがございます。これは論語による人格形成と資本主義の利益追求のバランスが人として大事であると説いたものでございます。

その中に、「その大きなことは片々たる小さなことの集積したものであるから、どんな場合をも軽蔑することなく、勤勉に忠実に誠意を籠めてその一事を完全に仕遂げようとしなければならぬ。」とございます。

オリーブの世界一も、かきの日本一も、市内唯一の大柿高等学校の存続も、こうした小さな、地道な活動やたゆまぬ努力の上に成り立っております。

私も本市の最重要課題でございます「人口減少の抑制」という大きな目標に向かって、小さなこと、一つのこと、また片方から見れば、もしかすると無駄と思われるようなこと、そのようなことを一つ一つ丁寧に、そして勤勉に、忠実に、誠意を込めて実施していきたい、小事を積み重ねていくことで大事としたい、このように考えております。

議員各位の一層の御支援と御協力をお願いいたします。

さて、今議会では、江田島市国民宿舎能美海上ロッジ設置及び管理条例を廃止する条例案など、当面する市政の重要案件につきまして御審議をお願いすることといたしております。

これら各案件につきましては後ほど御説明を申し上げます。何とぞ十分な御審議をいただき、議決を賜りますようお願いを申し上げます。

それでは、2月開会の定例会以後の市政の主な事柄（ことがら）につきまして、主なものを報告させていただきます。

市政報告書1ページの下段、3項目めでございます。

「病児・病後児保育事業について」でございます。

先月、5月7日、大柿町の澤医院におきまして「病児・病後児保育室わかば」を開設いたしました。

これは、満1歳から小学校6年生までの児童等が、病気のため保育施設や小学校へ行くことが困難な期間におきまして、保護者の方が勤務等の都合により、家庭で保育することができない場合に、澤医院内の施設で保育を行うものでございます。

お子さんの突然の病気に際しましても、安心して預けていただける施設といたしまして、事業内容の一層の周知に努めるとともに、引き続き、子育てしやすい環境づくりを進めてまいります。

他の項目につきましては、報告書のとおりでございます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

以上で、報告を終わらせていただきます。